

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294200759		
法人名	有限会社 花音		
事業所名	グループホーム 花音 (Aユニット、Bユニット合同)		
所在地	静岡市葵区水道町126-1		
自己評価作成日	平成25年2月28日	評価結果市町村受理日	平成25年3月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigvoCd=2294200759-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所		
所在地	静岡市葵区紺屋町5-8 マルシメビル6階		
訪問調査日	平成25年3月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の生活、健康管理をご本人、御家族の意見をふまえ十分な相談をした上で細かく配慮を行い、充実した時間を過ごせるよう努力している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

“お花畑のように人々が集う場所に、との想いから名付けられた“花音(かのん)の看板が優しく出迎えてくれる事業所です。今年1月に管理者が交替し、気持ちを新たに取り組んでいます。特に“みなで考え取り組むこと、からチームケアの確立を新任管理者は目指しており、例えば理念についても、「これをおこなえば実践につながるだろう」という具体的な事柄を管理者が提案していて、共有につなげようと取り組んでいます。近く、町内会長に挨拶に出向き、また地域包括支援センターには運営推進鍵の参加をあらためてお願いにあがる予定であり、1歩ずつできることから取り組もうという姿勢が覗えました。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の意義を十分理解した上で職員の実践につながってはいるが、入社して1年未満の職員が一部いる為、実践教育の中で更に全職員と共に理念の意義を共有している。	理念を掲示していますが、理念について唱和など直接的な示唆はおこなっていません。ただし、「これをおこなえば実践につながるだろう」という具体的な事柄を管理者が提案して、共有につなげようとして取り組んでいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の催事の参加や地域の会、新しいボランティアとの交流を増やし日常生活に取り入れている。	自治会に加入しています。回覧板は回ってきませんが、地域の情報は届けられていて、外出レクリエーションの参考になっています。地域の盆踊りに利用者も一緒に参加したり、毎月カラオケボランティアの訪問もあり、双方向の交流がみられます。	1月に管理者が交替し、町内会への挨拶がまだとのことですので、早めに機会をつくるよう期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域との交流で施設を多くの人に知ってもらい認知度を高めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議には毎回多くの方々が参加をしてくださり、より良い運営サービスの為の評価、助言をしていただいて向上を目指している。	本年度の実績は年5回に留まっていますが、すでに平成25年度の年間計画を立てており、隔月開催を確実なものとしております。前回は家族中心で取り組みましたが、家族会は別のもので運営したいと管理者は考えています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に市や包括に出席していただいているアドバイスを受け連携に取り組んでいる。さらに市介護相談員の訪問によりサービスの質の向上に生かしている。	行政からの運営推進会議への参加を切望しており、来年度は平日開催で事前の案内を出すことを決めています。地域包括支援センターへも管理者が挨拶に出向く予定でいます。	運営推進会議へ参加してもらえよう働きかけるとともに議事録を届けてさらに円滑な関係構築を進めることを期待します。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内研修やミーティングにおいて正しい知識を身につけ理解する事によりケアの実践に取り組んでいる。	玄関施錠もなく、フィジカルロックもみられません。更衣室と共用の休憩室もあり、また私的な相談も管理者が対応していて、メンタルケアも日常におこなわれています。職員間でフィードバックしにくい場合、管理者が間に入って調整することもあります。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング、申し送りの中で日々のケアに細心の注意を払い虐待防止の周知に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員は制度について研修にて学び理解し専門関係者と連携し活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前のご相談から日々の疑問点、改善案の提案等、利用者や家族等に丁寧に十分な説明を行いご理解をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約書に内外部の相談機関窓口の掲示の説明を行うと共に利用者や家族等の意見、要望を管理者が担当となり日々改善できるよう運営に努めている。	すべての家族に運営推進会議の案内を出して参加を呼びかけています。ケア方法を替えたことを家族に連絡していなかったことで、ご注意があったこともあり、家族からは何でも言ってもらえていると管理者は感じています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティング、日々の申し送り時に全員の意見交換、提案をし運営に関する改善点を見出している。	希望や要望を書き入れる何でも帳があり、職員は思いついたときすぐ提案できる仕組みがあります。衛生管理、防災点検、など係をつくり、職員の責任感を醸成しようとする取り組みがあり、本年はレク係を新たに追加しています。	キャリア形成などを相談するなど個人面談の機会があることを期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員同士の密な意見交換を通してより良い環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外研修、資格研修等の日程を周知し知識、介護力の向上を進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他会社の同業者と面識を増やし、職員の交流の場を多く作り質の向上を目指す。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者、家族等から些細な事でも情報を得り、少しずつ理解していく事で信頼関係を築いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	適切な説明により家族等の不安を取り除き、困っている事、要望等に答え信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他専門職との連携でチームケアの確立をしている上で必要としている支援をあらゆる形での対応を提案している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は常に利用者の立場に置き換え、理念に基づいた尊厳を尊重しながら信頼関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支	いつでも家族との対話を密にし本人と共に支えあう信頼関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	常にいつでも来ていただけるような明るい雰囲気、環境を整え外部との関係支援に努めている。	毎日のように訪ねてくる友人もいて、1日に3～4人の面会があります。本年から面会簿を用意しており、職員が訪問者とコミュニケーションとりやすくなっています。また、毎朝のお茶は紅茶など、本人の好みを反映させて淹れています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	なごやかな共同生活の場を提供できる環境整備を心がけ利用者同士の良い関係性を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	当利用者の関係だけでなく地域に根づいた介護事業者の立場を考えあらゆる相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	認知症であっても本人本位の希望を尊重しながら検討している。	入居時に家族から生活歴などを聞いて個人ファイルにまとめていますが、全職員が集う場での話し合いはなく、勤務歴によって理解に差があることは課題です。現場では職員が利用者一人ひとりの特性を熟知したうえで、上手に会話を小集団の中で廻していることを視認しました。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケアプランの情報を常に把握しより良いサービス利用に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアプラン、モニタリング、日々の日誌を活用しながら現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	専門職、介護職、計画作成担当者とのチーム連携で現状を把握しながらより良い濃い後計画を作成している。	現場にも日常的に入るケアマネージャーがモニタリングを職員一人ひとりに割り振り、マンツーマンのカンファレンスを通じてプラン化しています。家族の面会が頻回にあるため、要望も随時取り入れることできています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録、申し送り、ミーティングで情報共有し実践に反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人のニーズに臨機応変の対応を心がけた支援に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方やボランティアの方に楽しみを多く接しながら豊かな気持ち作りを支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望かかりつけ医と事業所看護師との連携を密にしながら適切な医療を受けられる様に支援している。	協力医の往診が月1回あり、法人勤務者と訪問看護事業所から週1回ずつ計2回の看護師訪問もあります。在宅の頃からのかかりつけ医であっても、事業所の協力医であっても原則家族に受診支援をお願いしていますが、情報の共有化が大切と考えているため、同行することが増えています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の健康状態を週2回の看護師に伝え適切な看護を利用者は受けている。介護職は指導、情報を受けて適切な介護支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくり	利用者の入院時には定期的に家族、病院と連絡をとり情報収集しながら事業者としての相談、支援をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアの実績からの経験とチームケアの結束力で、できる事の支援に取り組んでいる。	契約時に事業所のできる事、できないことを家族に説明しています。昨年からの重度化の指針の書面にも署名をもらっています。開設から看取りに近い状況も含めて2件の実績があります。今後も医療行為が必要なく、また家族の協力が得られる場合は取り組んでいく考えです。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	昨年、消防署員の派遣で職員のAED講習をし、事故発生時の対応フローを定期的に勉強して実践力を身につけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防計画を基に年5回の避難訓練を行い、職員全員が慌てることなく実行出来るよう体制作りをしている。	防火管理者の選任、防災対象物品など消防法8条に係る点のほか、17条の報知器など設備点検など保冷に適合していることは、消防署の立入検査でも認められています。来年度は年5回の実施を予定しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	目上の方に対する尊厳を尊重し丁寧な言葉使いを心がけ、対応をしている。	毎日の申し送りは事務所の中でおこなうようにしており、共用空間で職員の私語もみられませんでしたが、同性介助の希望には応じていますが、現在は事例はありません。呼称は、原則「～さん」です。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員の思いやりある言葉かけから希望、自己決定がスムーズに出来るよう心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員業務の優先ではなく、認知症ケアを理解し、本人本位のペースを大切に支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替え時のコーディネイトの提案をしたり、訪問理美容の活用により身だしなみやおしゃれの支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事制限がある方を含め、いつも楽しく、おいしく食べられるようメニュー、味付けに工夫を重ねている。	主菜は職員が作り副菜はケイタリングを提供していて、夕食は職員も一緒に食卓を囲んでいます。おやつは利用者の好みを反映して餡子のを定期的に提供しています。入居時に家族に確認をとっていますが、食器は現状湯のみに至るまで全て共通です。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	健康管理、状態の把握を密に行い、必要に応じた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの口腔ケアの充実化を図る為、専用歯肉ブラシ、義歯ブラシの導入により良い口腔状態を保てるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日々の記録、申し送りで排泄管理を行い、本人の自立意思を促しながら排泄の失敗のない支援をしている。	失禁を防ぐためにも、消耗品の在庫は量を確保しており、種類もその人の状態に合ったものを選定しています。歩行は困難であっても、立位があればトイレでおこなってもらうようにして、“できるかぎりトイレを、目指しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	専門職との連携で情報共有しながら運動、食事等で個別に配慮し予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的に週3回の入浴支援の中で体調管理しながら気持ち良く入浴出来る様に楽しみを増やしている。	日曜日は休浴日としてイベントや外出に重きをおいています。週3日をめやすとして、個人の入浴日がわかりやすいように一覧表も作成しています。また、風呂上りの塗布薬などケアについての表も看護師が作成したものがありません。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の生活習慣やその日の体調等により個別に休息できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師、看護師とのチームケアの連携により服薬管理、健康状態把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの得意な時柄や、生活歴、趣味、嗜好品の把握につとめ、出来る限りの役割、楽しみごとの支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気、気候の良い日は庭に出て外気浴、散歩、買い物等に出かけている。車を利用して季節の花を見にいくドライブをしている。	桜の花見など弁当持参で外出することもあります。全体で出かけることは年1回程度です。日常的には、土手や公園への散歩とスーパーへの買い物などで、歩行訓練と気分転換を図っています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	必要に応じて本人の希望で買い物等、職員が支援しながら行なっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の意思を尊重し、やりたい事、できる事を優先しながら自立の支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広いガラス窓を利用して明るく過ごし易い居住空間、共同作業で作った絵を壁に貼り季節感を取り入れて、居心地良い工夫をしている。	白を基調とした清潔感漂う共有空間には温水式床暖房が敷かれ、とても温かく過ごすことができます。ハンドソープは脇のワゴンに置かれ、洗面台が整然として、5Sと衛生管理の意識の高さが覗えます。窓から庭の桜が目に入り、花壇にも色とりどりの花が咲いていました。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにマッサージ機を置き、好きな時に利用している。庭にベンチと椅子を用意しており、十分なスペースもあって、温暖な時には花の手入れをしたり散歩したり、思い思いに利用できる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が住まれていた居住環境を視野に入れ、居心地の良い空間作りを考慮していく。	ベッド、洗面台、ロフトが備えられています。2.5畳のロフトには季節はずれの布団や衣類などが収納でき、便利です。思い思いの居室づくりが成されていて、書道の師範だった利用者の手による立派な掛け軸も視認しました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	カレンダーや時計を見やすい場所に提示したり、居室の名札も用意してある。レク用品等、いつもと同じ場所で見つけ易い所に置いてあり、安全性に気配りしている。		